

2025年度日本の持続可能な酪農研究会 IDF酪農家円卓会議



2026年3月2日

一般社団法人Jミルク 国際グループ 栗原文治



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)



IDF酪農家円卓会議とは？



概要

- IDF農場管理常設委員会によって組織されたアクションチームが主催
- IDFは酪農家との繋がりが少なかったことから、世界の酪農家が一堂に会し共有および議論する場を設けるため、2014年に提案、2015年に第1回が開催
- IDF常設委員会会議と同様に対面の円卓会議がIDF WDSの前週に開催
- その他、最近話題となっている酪農現場の課題について、各国の酪農家や専門家によるウェビナー報告が年に2～3回開催

目的

- 世界の酪農家を取り巻く問題について、酪農家が自由に意見交換・共有を行う機会を提供する
- IDF WDS に参加する他の酪農家と知り合い、ネットワークの構築に役立てる
- 農場管理、家畜の健康と福祉、環境、酪農政策および経済など関連するIDF活動およびIDF常設委員会への酪農家の参加を促す





IDF酪農家円卓会議2025の全体スケジュール

- 3月27日(木) ウェビナー ☆「移行計画 - 酪農家の後継者」
- 6月4日(水) ウェビナー ☆「乳牛におけるメタン削減戦略」
- 9月3日(水) ウェビナー 「酪農家に不可欠な水に関する情報」

各テーマは
対面会議へと繋がる

上記ウェビナーのうち

- ☆「移行計画 - 酪農家の後継者」
- ☆「乳牛におけるメタン削減戦略」

の内容は

Jミルク「海外酪農ニュースレター」にて紹介

「海外酪農ニュースレター」の
リンク先はこちら



<https://www.j-milk.jp/report/international/Newsletter.html>



チリのサンティアゴで対面会議が開催

- **10月18日(土) 酪農家円卓会議 / 酪農家討論会**
- **10月19日(日) 酪農家円卓会議 / 技術視察**



昨年のフランス・パリでの円卓会議・技術視察の様子



酪農家円卓会議2025/酪農家討論

開催場所: **チリ・サンティアゴ**

テーマ: **農場における水質と水量、メタン排出と栄養管理実践、農場継承**

出席者: 計49人

参加国: 米国、英国、オーストラリア、ニュージーランド、フランス、ドイツ、オランダ、イタリア、スウェーデン、カナダ、チリ、日本

日本からの出席者: 4名(酪農家1名、森永乳業1名、Jミルク職員2名)



酪農家円卓会議2025/技術視察

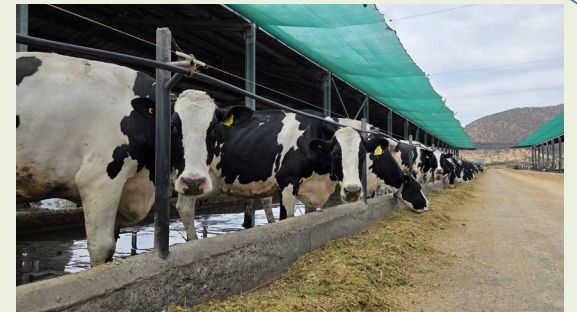
場所: チリ・クラーカヴィ(**サンティアゴ近郊の西側**)

視察先: アグリコラ・イ・レチェラ・プロテア(ALPRO)農場

出席者: 計49人

参加国: 米国、英国、オーストラリア、ニュージーランド、フランス、ドイツ、オランダ、イタリア、スウェーデン、カナダ、チリ、日本

日本からの出席者: 4名(酪農家1名、森永乳業1名、Jミルク職員2名)





酪農家円卓会議2025/酪農家討論

テーマ1:農場における水質と水量

テーマの理由

➤ 水質の問題は世界共通の課題。気候変動の影響により乾燥期の長期化も進行中

- ✓ 多くの国で乾燥地域は存在
- ✓ 水利権(水利用量の制限)等により、水のリサイクルが必要
- ✓ 耐乾性作物の必要性
- ✓ 牛の飲み水の水質は人と同じレベル。地下水の水質検査は厳格
- ✓ 水源汚染に関する酪農への社会的批判

...などを議論



- ◆ 「水量」は多くの国で基本的に確保されているが、重要視されているのは「水質」
- ◆ 多くの国で乾燥地域が存在し、水利権(水利用量の制限)等により、水のリサイクル(再利用)が必要
- ◆ 社会からの「酪農は水質の汚染源だ」という批判に対し、水質検査・モニタリングなどで証明が必要



酪農家円卓会議2025/酪農家討論

テーマ2:メタン排出と栄養管理実践

テーマの理由

➤ 専門家の間でも、**メタン削減の答えは一つではない難題**。酪農家の間でも**解決策の議論が必要**

- ✓ **バイオガスプラント**の活用
- ✓ **GHG測定ツール**の利用
- ✓ **消費者からの批判**
- ✓ **メタン削減添加剤**
- ✓ **牛の頭数を減らし一頭当たりの泌乳量を増やす**

...などを議論



- ◆ **消費者からメタンについて常に対策・改善を求められるにもかかわらず、費用は酪農家が負担**
- ◆ **温室効果ガス(GHG)測定ツールは国によって算定方法が大きく異なり、統一はほぼ不可能か**
- ◆ **飼料添加物(ボベア一等)は、一部消費者(添加物を極端に嫌がる層)には受け入れられないケースも**



テーマ3:農場継承

テーマの理由

➤ 世界の食料供給を継続するためには、酪農家の存続が不可欠。存続には外部継承という手段もある中、世代交代にむけてどのような計画や取り組みをしているのかを共有したい

- ✓ 家族内“外”への事業継承
- ✓ 子どもへの資産分配の割合
- ✓ 事業の意思決定方法
- ✓ 相続税問題

…などを議論



- ◆ 今の酪農の世代交代は家族内に限られておらず、外部継承を含め計画的な継承が必要
- ◆ 経営権は時間をかけて段階的に移譲することが重要(従業員→経営者)
- ◆ 親は経験を、子は新しい発想を持ち寄り、柔軟に対応する姿勢が求められる

次回のテーマ候補：労働力、バイオセキュリティなど



酪農家円卓会議2025/技術視察

視察先：アグリコラ・イ・レチェラ・プロテア(ALPRO)農場

概要：

水の利用量を制限する**水利権**あり

- ✓ **雨が降らず水が足りない地域**(降雨量240mm/年=東京の約6分の1)
- ✓ **約600haの農地を所有し、デントコーンとアルファルファを自給生産**
- ✓ **都市からの下水処理水を牛舎・搾乳施設の洗浄水として利用後、集められた洗浄水・糞尿を固液分離し、得られた液体を農地の灌漑水として再利用**
- ✓ 搾乳牛1,500頭を飼養し、ロータリーパーラーで**年間2万3千トン**の生乳を生産



<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/chiba/index.html>

洗浄水・糞尿は、サイクロン式ラグーンに集められ、遠心分離により固形分を分離



その後、液体はポンプで丘の上にある第2のラグーンに送られ、三段階式に固形分をさらに分離



最後のラグーンから取り出された液体を農地に散布





酪農家円卓会議2025/技術視察

コンポストバーン＝アニマルウェルフェアに最適

- ✓ フリーストールと違い、仕切りのない広い牛床スペースを確保
- ✓ 牛は自由に横臥・起立・移動することができる
- ✓ 牛床は毎日、ロータリー(攪拌機)で手入れをすることで、牛の休息に快適な環境を提供
- ✓ 冬季は気温が低下し、敷料(戻し堆肥)の乾燥が進みにくくなるため、牛床が湿りやすくなる課題も



休息エリアはロータリーで表面を柔らかくする

牛床に問題がある際は、牛舎裏のパドックへ数時間牛を移動させる

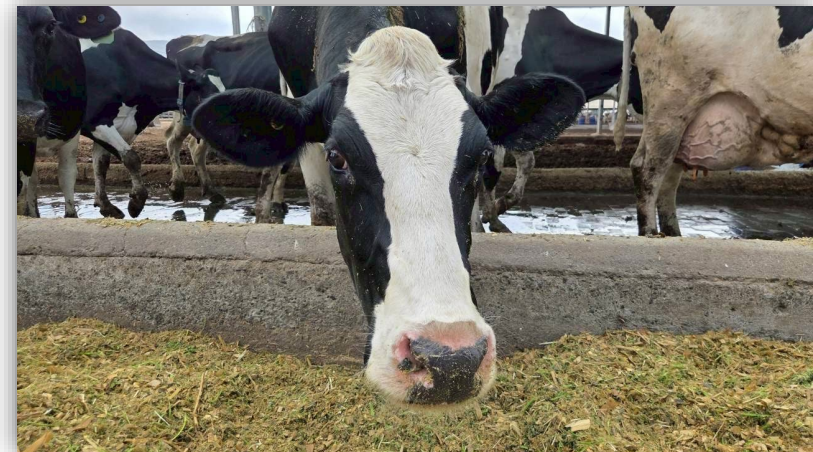
採食通路の清掃は、大量の水を流し糞尿を洗い流すフラッシング・システムを採用





所感

- 水については、日本においても、**昨年9月の北海道の干ばつなどの天候被害があり、今後は灌漑対策の必要性が高まる可能性があるのではないか**
- **GHG削減**については、**日本では政府主導**で進められているが、**酪農生産者の取り組みがより容易になるような施策や活動、情報発信などが求められる**と感じた
- 農場継承は、**家族内に限定される時代ではない**とのことから、**第三者継承も視野に入れた、より柔軟な経営継承の計画性が日本でも必要**ではないか
- 技術視察では、**水を再利用することで、限られた水資源を最大限活用している**様子が伺えた。日本においても、例えば**不足しがちな夏季の水資源を有効活用**するために、こうした取り組みは参考になるかもしれないと感じた





次回

IDF酪農家円卓会議2026/酪農家討論

ニュージーランド・オークランドで開催

日程(予定):11月14日(土)

テーマ候補:労働力、バイオセキュリティなど

※その日の前後に、IDF酪農家円卓会議/技術視察が開催される(未定)

日本の酪農家も参加いただき、
世界の酪農家を取り巻く問題について
意見交換・情報共有いただく予定

IDF WDS(11月15-19日)後、テクニカルツアー(技術視察)も開催される予定

暫定

ツアー名	主な訪問先
ワイカト (北島)	・フォンテラ・テ・ラパ、ミルクテストNZ (研究所)、農場 - オークランドから約1時間 ・ワイカト/ロトルア地域商用農場「自然に基づく解決策」
マナワトゥ (北島)	・フォンテラ研究開発センターおよびマッセイ大学研究農場 - パルマーストン・ノースまで飛行機で1時間
カンタベリー (南島)	・フォンテラ・ダーフィールドおよび農場 - クライストチャーチまで飛行機で1.5時間

*その他追加ツアー・内容変更の可能性あり





IDF WDS 及び 酪農家円卓会議にご参加された 北海道・酪農家の(株)さとう牧場の佐藤 衛保 氏



感想記

森永酪農振興協会様からお話をいただいた際、ワールドデーリーサミットについてどのような集まりなのか全く知りませんでした。日本の裏側にあるチリに行けるとのことだけで参加させて頂くことを決めました。移動にまる1日以上かかり、日本を出発した時は紅葉の秋でしたが、チリのサンティアゴは夏に近い春の季節で、空気は乾燥していて良い時期に行けてとても良かったです。

今回のサンティアゴ大会には、酪農家、関連企業、研究者の方々など40カ国以上1,000人以上の参加者がみられ、その規模の大きさにとても驚きました。これも酪農乳業が関連する産業が非常に多いことと、世界の食料供給を担うとても大切な役割をしているからだと改めて実感いたしました。

酪農家円卓会議では、特に印象深かったのは環境問題で、酪農家の排出するメタンがどの国も問題視され、消費者との対応であったり、対策にかかる費用の問題であったりと、日本においてはまだ先のように思っていたのですが、これから環境問題の対応に備えていかなければならなくなるのを感じました。

酪農家視察では、施設は屋根だけで壁がなく、コンポストバーンで敷料もかからず、非常に低コストで飼養管理されており、雪が降ることがほとんどなく、乾燥した気候のせいか、100頭近く飼っている牛床にしては乾燥した状態で管理されていて、環境の違いはありますが、半年近くが冬の北海道にはとてもうらやましく感じました。この農場ではデントコーンが75%とアルファルファ25%で粗飼料を組み立てていて、この地域のほとんどがデントコーンをかなりの割合で給餌しているようで、うちの農場にも取り入れてみようかと思いました。

サミットではまだまだ日本は存在感が薄い印象でしたが、日本の酪農分野もすごいのだと知ってもらえるようにしたいと感じました。たくさんの酪農家の方に参加して頂いて体感してほしいIDFワールドデーリーサミットでした。



IDF WDS 及び 酪農家円卓会議にご参加された 北海道・酪農家の(株)さとう牧場の佐藤 衛保 氏

